




平成23年度「施設の有効活用にかかる公開検討会」施設ごとの諮問内容について

No.	施設名称	現状・課題	諮問内容
A1	水木邸	文化資産として保全する必要性や、来訪者数に比例して経費が高くなることから、開館日を限定せざるを得なくなっている。	資産の保全、文化振興、運営コストの3者のバランスが取れた運営手法についてご意見を伺う。
A2	中山文化村(清華園、旧片桐邸)	・利用単位当たりコストが2,000円近くで推移しており、その縮減が求められる。 ・施設の内容や規模からすると、施設使用そのものを有料化することは現実的ではない。 ・「旧片桐邸」は東日本大震災により損傷を受けて休館中であり再開館には改修が必要である。	コストパフォーマンスの向上と、中山地区の文化・観光施設としての効果的な活用策について、運営手法等の観点からご意見を伺う。
A3	郭沫若記念館	・費用を増加させることなく顕彰機能を強化することが求められる。 ・芝桜の時期である4月に年間利用者数の半数が訪れ、他の時期の利用が少ない。	回遊性の高い街に所在するという特性を活かし、費用を抑制しながら年間を通じた入場者数の増加を図る具体的な方策についてご意見を伺う。
A4	考古博物館、歴史博物館	・老朽化が目立ち始めており、近い将来、大規模改修や建替えが必要となる時期に差し掛かってくる。 ・外環道の建設、それに合わせた公園の整備も予定されているなど、周辺地域の環境も大きく変化しつつある。 ・博物館施設の規模に比べると利用者数が少ないといえる。	市民の共通歴史財産の保存とその有効活用のための方策について、幅広い視野と多角的な観点からのご意見を伺う。
A5	自然博物館	・動植物園内に設置されているものの、自然博物館と動植物園とでは入場料や所管する組織等が異なっており、より効率よく管理運営する余地がある。 ・動植物園の敷地内という立地条件をより活かした展示活動の充実が求められる。	より効果的に運営していくための、目指すべき方向性とその具体的手法についてご意見を伺う。
B1	大柏川第一調節池緑地ビジターセンター	・開設から4年が経過しているが、利用者数は伸び悩みの傾向にある。 ・集会室・会議室の利用者は地域住民や市民団体・環境団体が中心であり、利用が一定の範囲に限られている。 ・広大な北部広場や駐車場のエリアも、県との管理協定等による制約もあり、十分に活用されていない。	ビジターセンターの建物だけでなく、周辺の(北部)広場や駐車場のエリアについても、その広さや周辺環境、幹線道路に面しているといった立地条件など、同緑地が持つ特性を有効に活用し活性化を図るための目指すべき方向性とその具体的手法について広くご意見を伺う。
B2	地域ふれあい館(13館)	・利用人数の伸びがみられない。 ・利用団体が固定化してきている。 ・施設の老朽化が進んでいる。	さらなる稼働率の向上策と地域コミュニティの活性化を図るために地域ふれあい館として果たすべき役割についてご意見を伺う。
B3	アイ・リンクセンター	立地条件を生かした取り組みを行うなど、稼働率、利用者数の拡大を図ってきたが、駅前施設として、さらなる施設の有効活用、利用率の向上に向け、対策が必要。	駅前という立地条件を生かした更なる有効活用策について具体的にご提案を伺う。
B4	八幡市民談話室	駅に大変近い交通至便な場所に位置しているが、市の案内施設として、十分機能しているとはいえない状況である。	本施設を駅前施設に相応しいインパクトある機能を有した施設とするための具体的な手法についてご意見を伺う。
B5	南行徳市民談話室	駅前施設として、さらなる施設の有効活用、利用率の向上に向け、対策が必要。	駅に大変近い場所に位置していることから、この立地条件をより生かし、設置目的に合った更なる有効活用策、利用率の向上策についてご意見を伺う。

平成23年度 施設の有効活用にかかる公開検討会
当日(平成23年11月19日)の進行について

A. 全体の流れ

時間	内容	場所
12時30分	①集合 ②本番前ガイダンス ・当日の流れ確認 ・次回会議の日程確認 ・その他諸連絡事項 (ガイダンス終了後、13時までに 第4委員会室へ移動) 	第1委員会室
13時00分	③開会式 ・市長(代理:企画部長)挨拶 ・会長挨拶 ・議論・検討の進め方説明 ・タイムスケジュール説明 ・注意事項説明 (開会式終了後、Bグループは 第5委員会室へ移動) 	第4委員会室
13時10分	④議論・検討開始 	Aグループ:第4委員会室 Bグループ:第5委員会室
16時50分	⑤全日程終了・解散	

B. 議論・検討の進め方

- 原則として、《文化施設》《博物館》《公園施設》《貸館施設》の分類ごとのタイムスケジュールの中で、施設ごとに以下の手順に沿って議論・検討を進めていく。
- 司会・コーディネーターは会長(Aグループ)、副会長(Bグループ)が務める。
- ④**でとりまとめられた考え方を市政戦略会議としての最終的な結論とせず、次回開催の会議においてその考え方をさらに精査し、その結果を最終的な結論として、市長に答申する。

① 課題・諮問事項の説明

- 事務局より、その施設が抱えている課題を説明し、議論・検討をしていただきたい事項を提示する。



② 対象施設の概要説明

- 所管課より、施設の設置目的、総合計画上の位置付け、対象者、利用状況、歳出と歳入(財源)の状況等を説明する。



③ 質疑・議論

- ①** **②**の説明や冊子に記載の資料、勉強会や現地視察での内容を踏まえながら、質疑・議論を行う。
- 質疑・議論がある程度煮詰まってきた時点で、委員より各々の最終的な考え方を簡潔に表明する。



④ まとめ

- 各委員より表明された考え方等をもとに、これまでの議論をとりまとめる。